

福島現況報告記者會

破解迷思

- 發言順序：
- 主持：全國廢核行動平台 崔愷欣
- 地球公民基金會 主任 李翰林
- 綠色公民行動聯盟 副秘書長 洪申翰
- 綠色和平 能源專案經理 李之安

了解福島真相，破解迷思

錯誤

迷思1：災區已經除污，沒有輻射污染了？

迷思2：災區避難指示已經解除，人都回去了？

迷思3：核災傷害被誇大，沒有人死於福島核災？

迷思4：核災不是結束了，到底還需要多少費用？

迷思5：安倍政府不是已經宣布要「重啟核電」了嗎？

迷思6：安倍政府在今年6月公布最新的「五年能源計畫」，其中規劃2030年要

讓核電站比達到20~22%，這不就表示日本未來還是要大量使用核電嗎？

迷思7：日本與台灣的能源改革，真的有條件大幅發展再生能源嗎？

福島の**今**と エネルギー の未来

2018

目次

福島原発事故の被害	2
避難指示の解除でも進めぬ帰還	4
避難者たちの現状	6
子どもたちの甲状腺がんの状況 肺転移など深刻な症状も	10
保養の取り組みから～求められる国家としての政策～	12
ばらまかれる放射性物質	14
柏崎刈羽原発が審査合格…東電の責任はどこに？	16
電力自由化から2年～ひろがるバフーシフトの輪	18
どうなる？エネルギー基本計画	20
国際的な脱原発の流れと日本の原発輸出	22
イギリスですすむ日立の原発輸出～公的資金で後押し！？	28
2017年度主な出来事と FoE Japan の活動	32

除汙 不代表沒有輻射污染

2011年3月11日，因東日本大震災而發生的福島第一核電廠事故，造成大量放射性物質外洩，使東日本地區遭受汙染。初期外洩的放射性物質之中，據估計銻137的量達到6千兆~3萬7千兆貝克，為廣島原子彈爆炸的60倍左右。雖然因為位處西風帶，大半的放射性物質都被吹往海邊，但風向瞬息萬變，放射性物質還是被帶到內陸地區，通過飯館村、伊達市、福島市、郡山市等地，降雨或降雪之後就沉積在土壤，因而造成長期性的汙染。”

-

福島縣警戒避難區域

100年3月11日日本東北發生大地震及海嘯，引發福島第一核電廠事故。為了因應核災事故，日本政府陸續發布福島核一廠半徑3 公里、10 公里及20 公里內居民疏散避難，20 至30 公里的居民則採室內掩蔽或自願疏散，福島縣居民因為地震、海嘯及核災之避難人數一度曾高達16萬3千多人。

核災事故穩定後，日本政府開始進行相關復原措施，並訂定相關除污計畫，經由與疏散撤離的市町村討論及執行除污後，將避難指示區域重新規劃。各區的相關定義如下：

警戒區	東京電力福島第一核能發電廠半徑20公里以內地區
計畫性避難區	事故發生後1年內居民遭受曝露劑量超出20毫西弗地區
避難指示解除準備區	.整年累積劑量20 毫西弗以下地區 .可行車經過、居民短暫返家或恢復重新營業(禁止留宿)
居住限制區	.整年累積劑量有可能超過20毫西弗地區 .除了行車、居民短暫返家與基礎設施重建可進入本區，儘量避免不必要、不緊急的進入
返回困難區	.目前之整年累積劑量超過50毫西弗地區 .要求徹底疏散避難，另一方面儘量考慮到居民的需求，可開放臨時進入

表 福島県内4町村の帰還状況

	人口… A	居住者 (転入者 含む) B	居住 世帯	B/A
富岡町	13,228	429	298	3.2%
浪江町	17,981	490	338	2.7%
飯舘村	5,880	607	320	10.3%
川俣町山木屋	946	285	126	30.1%

(出典：各自治体の発表データをもとに作成)

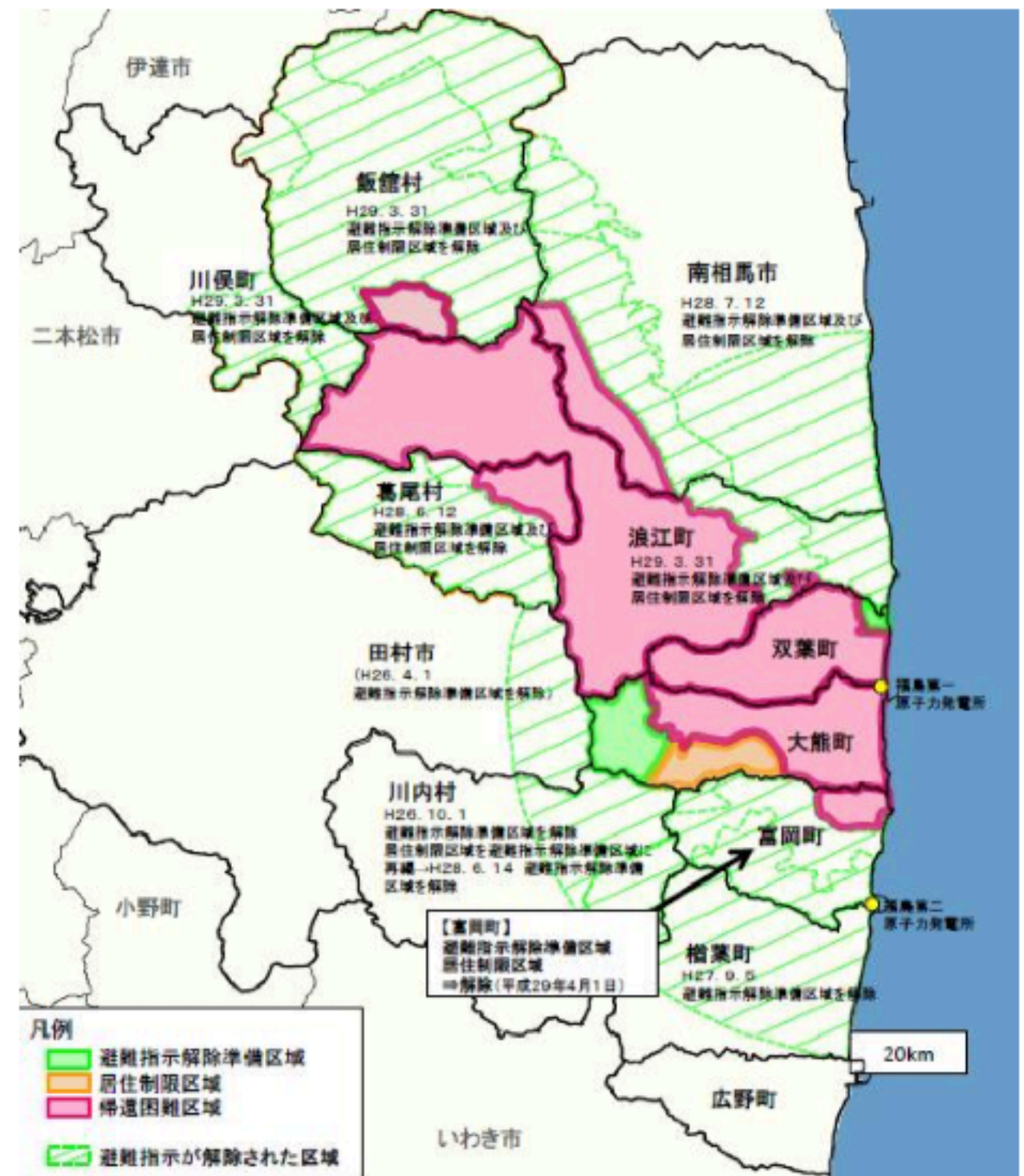


図 避難区域のイメージ (2017年4月1日時点)
出典：福島県「避難区域の変遷について」

災區返還人口不到兩成

◆＜原発事故＞旧避難指示区域帰還率 15%
福島9市町村、全域解除から1年

福島縣9個市町村 解除避難指令一年後

避難指示區的居民返鄉率15%

旧避難指示区域の住民帰還率

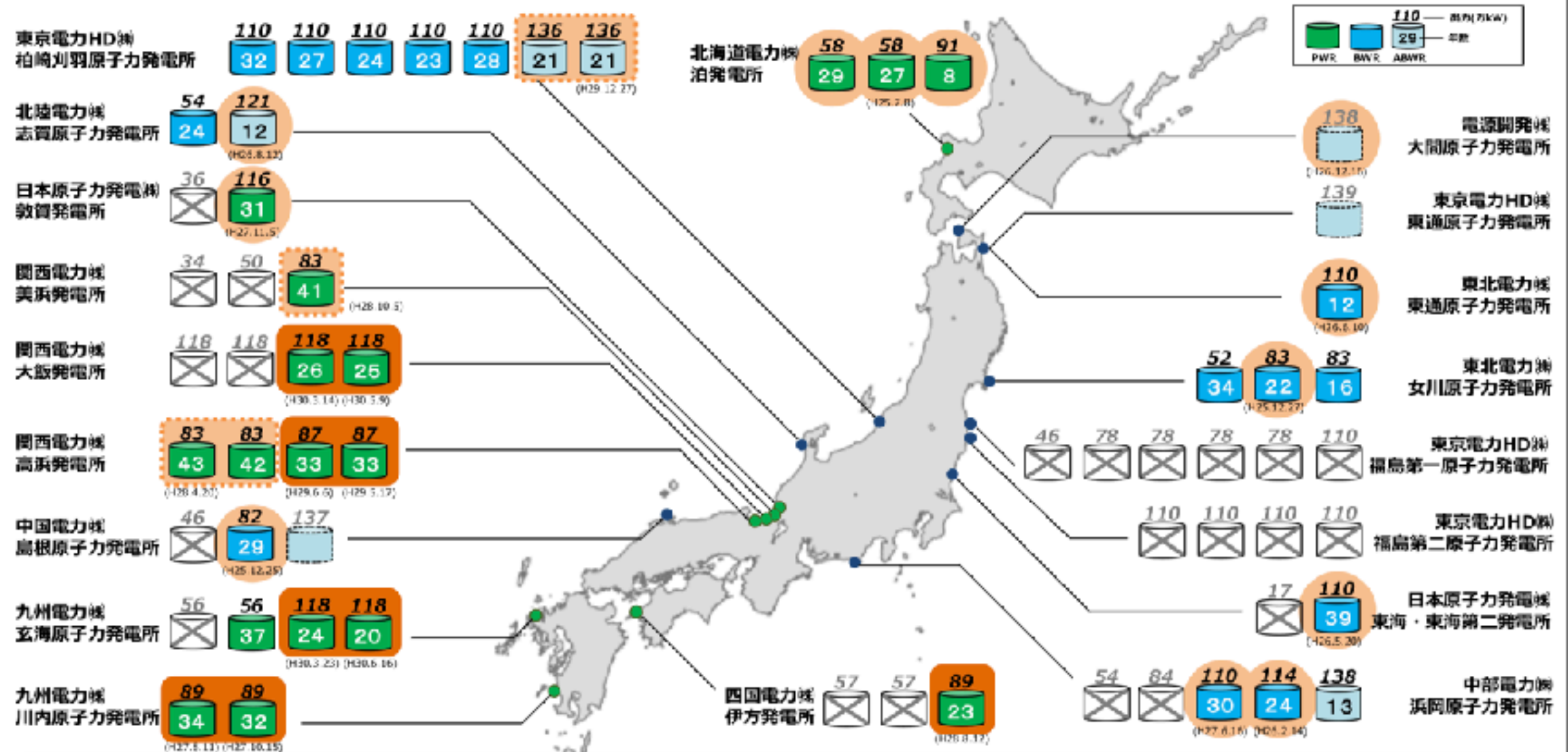
	解除時期	対象者(人)	居住者(人)	帰還率(%)
田村市 都路地区東部	2014年6月	287	230	80.1
川内村東部	14年10月 16年6月	298	85	28.5
楢葉町	15年9月	7,140	2,270	31.8
葛尾村	16年6月	1,328	256	19.3
南相馬市 小高区など	16年7月	9,286	2,887	31.1
浪江町	17年3月	14,909	490	3.3
飯館村	17年3月	5,612	607	10.8
川俣町 山木屋地区	17年3月	946	285	30.1
富岡町	17年4月	9,396	429	4.6
全 体		49,202	7,539	15.3

福島県県民健康調査 甲状腺がんの子どもたちの数

	対象者数、受診者数	甲状腺がん又は疑い	手術後確定	備考
一巡目検査(2011～2013年)	対象:367,649人 受診者300,473人 (受診率81.7%)	116	101	手術例102例、良性1人、乳頭がん100人、低分化がん1人
二巡目検査(2014～2015年)	対象:381,256人、 受診者270,511人 (受診率71.0%)	71	51	がんまたは疑いの71人のうち、前回A判定は65人。手術例のうち低分化がん1人
三巡目検査(2016年～)	対象:336,616人 受診者数:120,596人 (受診率35.8%)	7	7	
合計		194	159	

2017年12月25日までの福島県県民健康調査委員会による発表をもとに作成

平成30年6月14日、東京電力HD（株）は、福島第二原発を廃炉の方向で検討を進める旨を表明。



日本反對核電重啟的民意六成

◆朝日新聞 2018年2月19日 民意調查

ところで、あなたは、いま停止している原子力発電所の運転を再開することに、賛成ですか。反対ですか。

賛成 27

反対 61

その他・答えない 12

是否贊成核電廠再運轉？

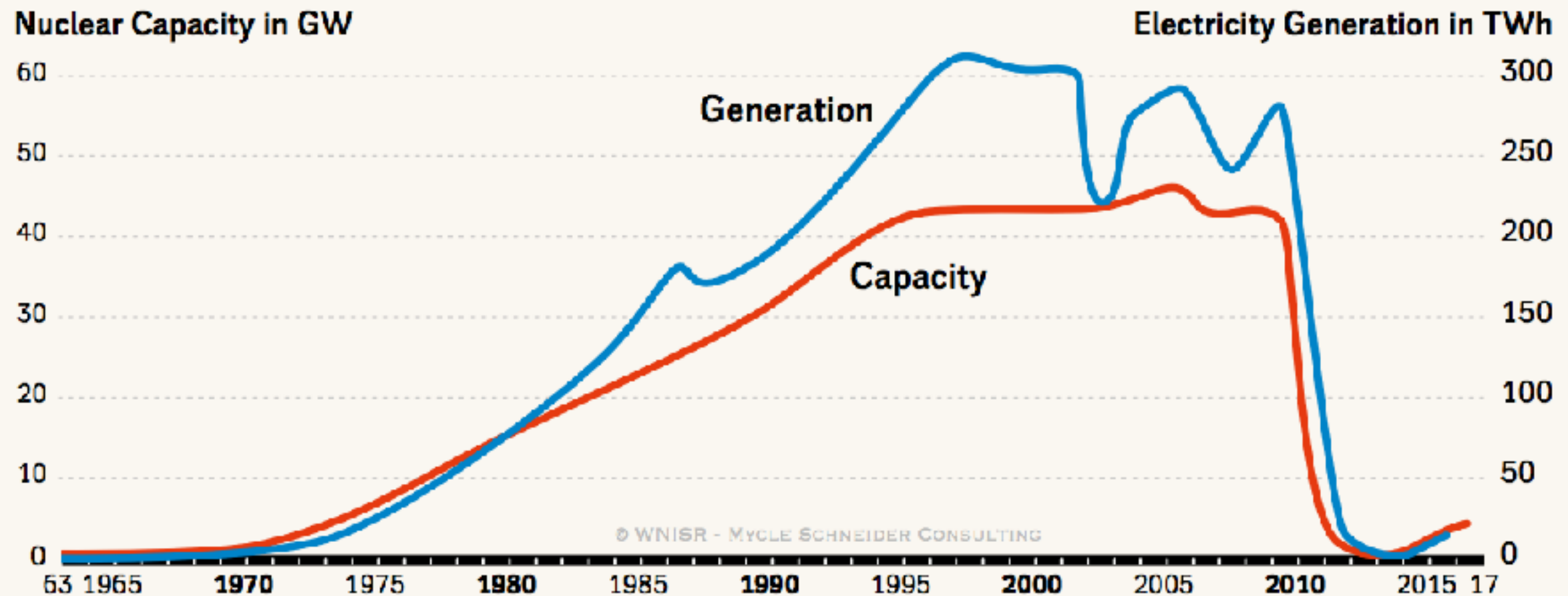
贊成運轉27%

反對運轉61%

其他12%

Figure 19 | Japanese Nuclear Activity Program History

Rise and Fall of the Japanese Nuclear Program - 1963 to July 2017



Sources: WNISR, with IAEA-PRIS, 2017

《Evaluation and recommendations on the Japan's Fifth Basic Energy Plan》

グリーンピース・ジャパン ブリーフィング・ペーパー 2018年6月

第5次エネルギー基本計画（案） についての評価と提言

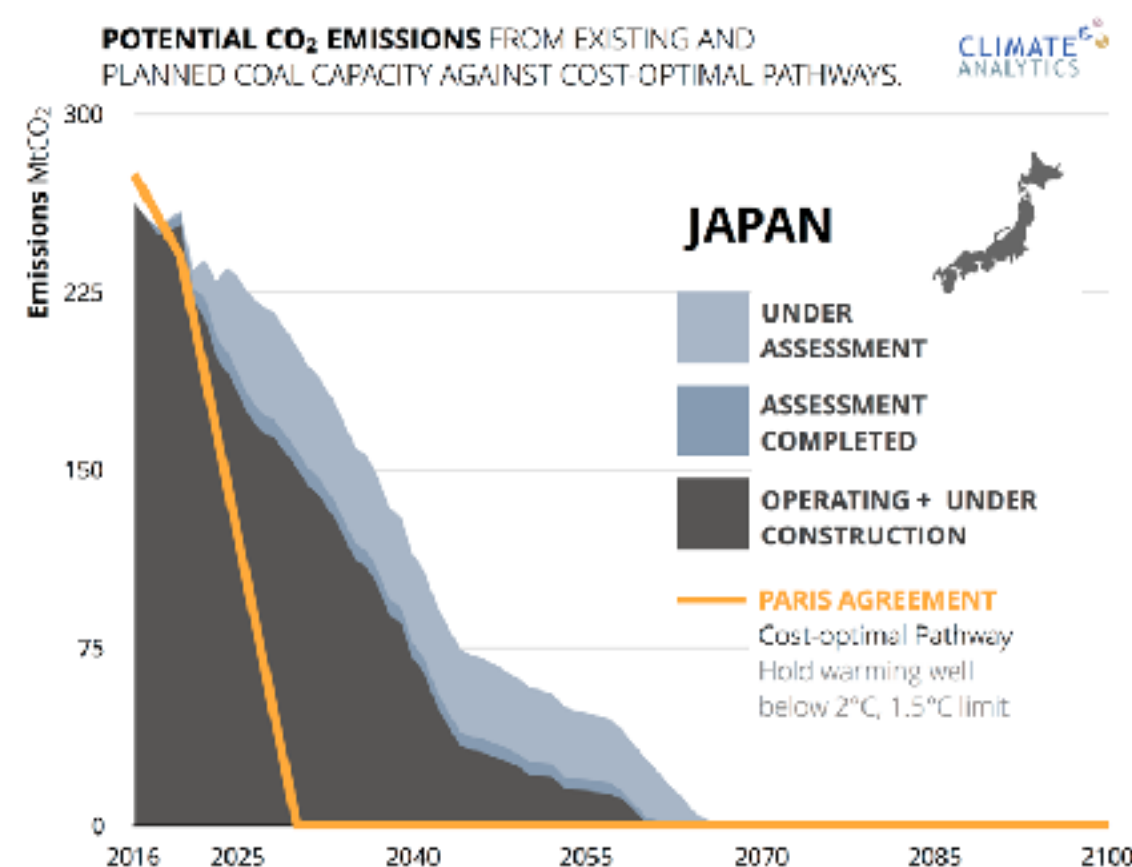
概要

経済産業省は今年5月、日本の今後のエネルギー政策の指針となる「第5次エネルギー基本計画（案）」をまとめました。政府は、6月17日までパブリックコメントを募集し、今夏、閣議決定を目指しています。このブリーフィング・ペーパーは、グリーンピース・ジャパンがそのエネルギー基本計画（案）を電力の点について評価し、提言をまとめたものです。

GREENPEACE
JAPAN

燃煤發電擴張計畫與環境永續背道而馳¹³

- 提高機組效率對減碳助益不過16%
- 將持續燒煤到2070年
- 能源系統欠缺減碳規劃將使日本企業難易吸引外來投資



GREENPEACE

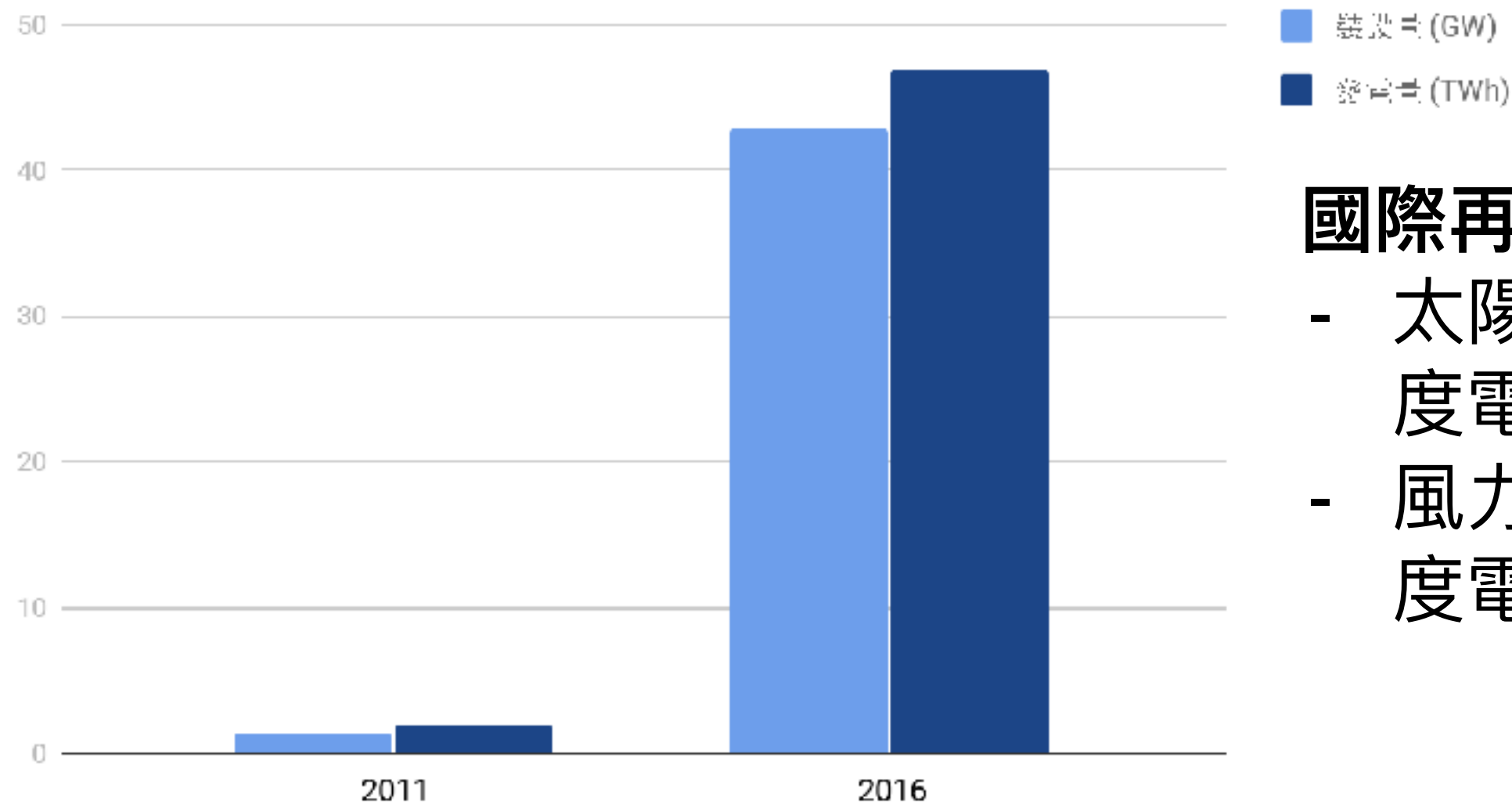
2030年的核電規劃不確定因素太多，不切實際¹⁴

- 大部分反應爐無法在短期內過審查 39 尚可運轉
- 地震、火山讓安全堪憂，公民訴訟仍在進行中 26 提出審查申請
- 16~34 可能在2030年除役

能源轉型應以再生能源為主

15

2011~2016太陽光電大幅成長



國際再生能源成本

- 太陽光電成本3.1 (元/度電)
- 風力發電成本1.2 (元/度電)

GREENPEACE

- 發言順序：
- 主持：全國廢核行動平台 崔愷欣
- 地球公民基金會 主任 李翰林
- 綠色公民行動聯盟 副秘書長 洪申翰
- 綠色和平 能源專案經理 李之安